

令和元年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落の状況及び集落協定の概要

都道県名：鹿児島県

市町村名：南種子町

島名：種子島

協定締結集落名：南種子集落

交付金額合計：7, 511, 227円

(1) 基本交付金：7, 511, 227円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0円

協定参加世帯数：42世帯、42人（うち漁業世帯42世帯、42人）

2. 協定締結の経緯

南種子町は3方を海に囲まれ優良な漁場が多く、これまで漁業世帯個々が海域環境の管理を行っている現状にあったが、近年水産資源の減少や魚価の低迷、また漁業者の減少や高齢化等の課題を抱えているため、水産資源の豊富な優良漁場の形成や、魚価の安定化を図ることなどを目指して、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

近年、魚介類の漁獲量が減少している状況のため、カナコ簗・イカ柴の投入によるイカの産卵場・育成場の整備、藻場増殖プレート等の設置・移設による藻場の再生、サメ駆除による資源管理、種苗放流等、漁場の生産力の向上に関する取組を実施することにより、地域漁業の活性化を図ることを目指した。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

新たな漁具・漁法の導入として、「カツオ曳縄」の試験操業を行った。

南種子町漁業協同組合主催の「お魚祭」に協賛として参加し、魚食普及活動・子どもたちによる魚のつかみ取りを行い、魚とのふれあい活動を実施した。

その他生産・流通に関する取組として、先進事例視察（鮮度保持の取り組み等）の報告・意見交換会を実施した。

③新規就業者に係る取組状況

今年度は、取組なし。

4. 取組の成果

①漁場の生産力の向上に関する取組の成果

イカの産卵場・育成場の整備事業については、前年度投入したカナコ籠の引き上げを行ったところ、産卵の痕跡はみられなかった。アオリイカの水揚げは昨年対比68%と減少したが、今後の漁獲高向上につなげるべく、今後も継続して取り組みたい。

藻場増殖プレートについては、広田浦から牛野浦・砂坂浦に移設設置し、プレートの追跡調査も実施した。種苗ブロックも40個を購入し、牛野浦に設置した。また、今年度は藻場保全の為アメフラシの駆除に初めて取り組んだ。今後の藻場増殖・再生への効果を期待したい。

サメ駆除については、集団駆除を6回実施した。操業での駆除5匹、買上159匹、合計164匹のサメを駆除した。

昨年に比べ、駆除数は減ったが、1・2月の釣時期にも被害が出るようになった。今年度は暖冬と言う事もあり水温が高かったので、冬場の被害も多かったものと思われる。駆除後、数日間はサメによる被害がなかったことから、定期的に実施し漁場の保全を図ることで、生産力向上に繋がることがわかった。

種苗放流については、イサキの稚魚を13,000尾放流した。また、トコブシについては、島間・牛野浦に各5,000個の放流も実施した。

②漁場の再生に関する実践的な取組の成果

漁協との協賛で魚食普及を図るため、アサヒガニ味噌汁の提供と子供たちを主体とした魚のつかみ取りを実施した。アサヒガニのおいしさを伝えることや子供たちが自分で捕まえた魚を家でさばき、食べることによって、将来にわたっての、町内や島内での消費拡大につなげることができた。

現在、ナノバブル発生装置を使用し、魚の鮮度保持を行うことで、魚価の安定化及び安定供給が図れるよう取り組んでいる。

ナノ・フレッシャーを使用することによる鮮度保持により、長期出漁時の漁獲物について魚価の安定を図ることが出来た。

先進事例視察については、宮崎市の津本光弘氏の「津本式」による神経締め・血抜き作業について研修を行った。今後取り入れることにより鮮度保持に努めたい。

また、研修時のビデオ視聴を行うとともに、鮮度保持による違いを検討するため試食会を行い、意見交換を行った。近年は消費者における安心・安全を求めるニーズが高いため、生産者がより良い魚を届けるための鮮度保持を行い、販売者と協力し合いながら南種子産の魚をブランド化し、販路拡大につなげていきたい旨も話し合った。

新たな漁具の導入を目指して、「カツオ曳縄」の道具作成・試験操業を行った。漁獲対象にしていたスマが釣れることもあったので、今後の試験操業により、技術の確立を目指し、誰でも取り組める漁法としたい。

【藻場増殖プレート移設・追跡調査】



【サメ駆除】



【種苗放流】



【カツオ曳縄】

